

創業100周年、
We were founded in 1921
その先へ





変化し続ける時代のニーズに 変わらぬ思いで応え続ける

立花エレテックの前身である、立花商会の創業は1921年。
当時はまだ普及し始めたばかりだった電気製品は
目まぐるしく進化を続け、人々の暮らしを豊かにし、
さまざまな産業の発展を支えてきた。
創業当時は平屋が立ち並ぶばかりだった大阪の町には
今では高層ビルが林立し、暮らしもビジネスもデジタル化が加速している。
時代の変化を機敏に察知し、新たな取り組みに果敢に挑戦し続けて
歴史を紡いできた、この100年。
創業当時から変わらない社訓を胸に、
変化するニーズに対応するべく人間力と技術力に更に磨きをかけて、
立花エレテックは、先の時代へと歩み続ける。



社訓

一、和合の気風

一、追取の気概

一、奉仕の精神

社員を家族と思い、助け合つてともに成長できる環境づくりを大切にし続けてまいります。

常に数歩先を見据えて、お客様のお役に立つ製品・サービスを提供してまいります。

自社の利益より、お客様の利益を考えて社会の発展に貢献できる商売に努めてまいります。

企業理念・経営ビジョン

常にCS（お客様満足）向上に取り組む

立花エレテックは「選ばれる商社でありたい」と考えております。お客様の満足がすなわちわれわれの満足であると信じ、“立花エレテックだからこそ”といつてお取引していただける企業であること、これがどんな環境にも生き残っていく商社の条件であると考えております。

「企業は人なり」総合的な人材育成を推進する

商社の根幹を支えるのは質の高い人材です。商品・技術知識の習得は当然のことですが、お客様から信頼され、社会から認められるための一歩大事なステップとして、立花エレテックでは、社員一人ひとりが人間として成長するための総合的な人材育成に力を入れています。宿泊研修施設の立志館では「人生の先達」から仕事・人生・人間関係などについて分野を問わずに学ぶ、人間力の醸成を目的に『人間道場』を実践しております。



加工ビジネスとオリジナル製品の開発に取り組む

仕入れて売るだけでは、お客様の多様なご要望に応えきれません。部品を組み合わせ、モジュールやユニット、コンポーネントにできるのが、立花エレテックです。EMS（エレクトロニクス・マニュファクチャリング・サービス）やMMS（メタル・マニュファクチャリング・サービス）を手がけられるのは、技術商社だからこそ。

コンプライアンス、環境対応を軸にCSRに積極的に取り組む

会社は社会の公器である以上、その器にあった責任を果たしていくしかなければなりません。省エネ・環境対応製品を取り揃え、また安全管理や品質管理に関するシステム構築に数多く携わってきた経験を元に、お客様のCSR推進をお手伝いすることが立花エレテックのできる最大のCSRだと考えております。

エンジニアリングを深化させる

立花エレテックの強みの1つは電機・電子製品を幅広く扱っていることです。それらを組み合わせたシステムを提案することで、お客様のご要望の一歩先を行くソリューションを提供することができます。商社でありながら開発に従事するエンジニアは全社員の1/4にものぼり、日々、より良いシステムを提供するために切磋琢磨しております。

発刊にあたって



当社は2021年9月1日をもちまして、創業100周年を迎えることが出来ました。これもひとえに、多年にわたり当社をご愛顧、ご支援くださいましたお取引先さま、株主の皆さま、そして社業の発展に努力を惜しまなかった先人達のおかげであり、誠にありがとうございます。心から感謝を申しあげます。

当社は1921年、初代社長立花訓光が、大阪の地において、将来を見据えた「電気の物販」である立花商会を創業いたしました。

常に新しいことに挑戦してきたチャレンジ精神は、当社の社訓にもございます通り、今日の、立花グループの大きな強みとなって脈々と受け継がれています。

100年の歩みは必ずしも平坦な道のりではありませんでした。歴史の大きなうねりにあって、諸先輩方が手探りながらも、社員と共に、着実に一步一歩道を切り拓き、知恵と工夫、努力を結集し、さまざまな困難を克服したからこそ、今日の当社があります。

私たちは今、次の100年に向けて受け継いだ有形無形の財産を次代に継承していく責任の重さを感じております。今回100年の節目に合わせ「創業100周年、その先へ」を発刊いたしました。

年史の編纂にあたりましては、幾多の苦難を乗り越えてきた、歴代の経営者にスポットを当てた歴史本的な体裁にしております。是非、ご覧頂ければ幸いです。

当社は、これからも時代の変化を敏感に感じつつ、広く社会、お取引先さまのお役に立てますよう、いっそう努力をし続けてまいります。

皆さま方に於かれましては、これまで以上のご指導とご支援をお願い申しあげ、発刊のあいさつとさせていただきます。

代表取締役社長

波邊 弘

役員紹介



二列目

執行役員
小林幸司

取締役
辻川正人

一列目

執行役員
永安悟

監査役
塩路広海

執行役員
松浦良典

監査役
大谷康弘

常務執行役員
高見尚志

常勤監査役
松橋澄

執行役員
米田浩

代表取締役専務
渡邊武雄

執行役員
多田満

執行役員
山口均

執行役員
植田裕和

取締役専務
高見貞行

執行役員
城下雅紀

取締役常務
高見貞行

執行役員
佐野博行

取締役
生田誠

執行役員
布山尚伸

執行役員
布山尚伸



目次

- 1 —— 口絵
- 6 —— 社訓 企業理念・経営ビジョン
- 9 —— 発刊にあたって 代表取締役社長 渡邊武雄
- 10 —— 役員紹介

<第1編>

- 17 —— 立花エレテック100年の歩み
- 18 —— 創業者 立花訓光の先見の明 (1921-1931年)
- 20 —— “電気の時代”を見据えランプや配線器具を販売
- 22 —— 大阪市電気局の動力工事部門を請け負う
- 23 —— 扇風機を皮切りに三菱電機製品の販売を開始
- 24 —— 金融恐慌・世界恐慌の下で安定成長を持続
- 26 —— 発展の一途をたどる中 店主・立花訓光が急逝

当時の裏側をCheck!

- 22 —— 立花商会の心臓部である工事部門の躍進
- 23 —— 相手の立場に立って人事を尽くす
- 25 —— 渡米経験が立花商会設立の鍵

- 28 —— 2代目社長 佐竹則蔵の謹厳実直 (1931-1952年)
- 30 —— 合資会社への改組とモーター販売の快進撃
- 32 —— 工事部門の業容拡大が会社全体の成長を牽引
- 36 —— 戦時統合により工事部門を分離
- 40 —— 終戦直後の混乱期を経て復興への足掛かりをつかむ
- 42 —— 本社社屋の再建と株式会社への移行
- 44 —— 創業30周年を迎える取扱品目も増加
- 48 —— 景気の波に翻弄されつつも着実に成長の階段を上る

当時の裏側をCheck!

- 31 —— モーター販売を起爆剤に業績を拡大
- 35 —— 離れて時を待つ
- 37 —— 無私無偏のリーダー
- 41 —— シガーライターで糊口を凌ぐ
- 43 —— 三菱電機と共に歩んだ復興の道
- 53 —— 社員の向上心が会社を大きく成長させた

54 —— 3代目社長 中興の祖 佐竹孝雄 (1960-1988年)

56 —— 高度経済成長期の真っ只中、
社員の期待を背に佐竹孝雄社長が就任
組織変更と販売拠点の拡大を軸に、部門別独立採算制の導入、
中長期経営計画の推進など、新たな施策を繰り広げて
家電部門の業績を伸長させた

68 —— ドル・ショック、家電営業権の譲渡と相次ぐ危機も、
機器・重電部門の強化で痛手を最小限に抑えて乗り切った

80 —— オイルショック、大口取引先倒産の危機も、
新分野の開拓とエレクトロニクス化への機敏な対応で克服

84 —— 「技術商社」の誕生につながった技術陣の創意工夫、
制御技術に強い立花の起源はここにあり

92 —— 貿易課から始まったアジアへの拠点政策

98 —— 念願の上場

当時の裏側をCheck!

58 —— 商都大阪は大渋滞
59 —— 就任早々、有言実行の施策展開で、社員の信頼を勝ち取った
61 —— 好景気の最中、渡米した佐竹社長が
IBMコンピュータの導入を決断
65 —— 「TCチェーン」で三菱家電ファミリーの結束強化
71 —— 三菱電機による特約店政策の整備
73 —— 社員も経営の一員
74 —— 1971年 創業50周年、決意を新たに
76 —— 国内コンピュータ開発の分岐点
82 —— 管理・営業部門への本部制導入
83 —— 苦難、試練を乗り越えて
86 —— 創業60周年、最新のマイクロロボットを販売
88 —— 商社だからこそ「技術」で勝負
89 —— 物流オンラインシステム完成
91 —— 独自の営業スタイルで立花ファンを獲得
93 —— 国内からインターナショナルへ輸出取引の開始
94 —— アジアに軸を絞って展開した海外進出
100 —— 困難を乗り越えるチャレンジの歴史

102 —— 4代目社長 立花隆の情熱とロマン (1988-1997年)

104 —— 「F&G」を掲げて新体制が発足
106 —— 苦難の時代を乗り越えて事業基盤の確立を進める
112 —— 震災復興の最中「たちばな'96CCVフェア」を開催

当時の裏側をCheck!

107 —— 社会的使命が、当社をさらに強くした
111 —— 働く人にも、環境にも、やさしいビル
113 —— インターネット時代到来を、いち早く紹介

114 —— 5代目社長 仲田政弘の顧客優先 (1997-2000年)

115 —— 21世紀に向けて基盤をより強固なものに

116 —— 6代目社長 渡邊武雄「その先100年」のFounding (2000年-)

118 —— 大改革を断行し新生「立花エレテック」へ
122 —— 東証・大証一部上場を果たし一流企業を目指して邁進
125 —— 独自の取り組みで人間力を養い、一体感を醸成
127 —— グループ企業を増やし事業の幅を広げる
131 —— 一大技術商社を目指し満を持して「C.C.J2200」始動
133 —— M2M、3Dプリンターなど時代に即した取り組みを推進
135 —— 創業100周年を迎える未来への挑戦が始まる

当時の裏側をCheck!

121 —— 「感動、感激、喜怒哀楽」を旗印に
126 —— 「個人商店」からの脱却
130 —— 「立花エレテックグループ」としての力が、発展の推進力に
132 —— 「創生21」、「GT21」そして「C.C.J2200」へ

<第2編>

137 — 渡邊社長 SPECIAL INTERVIEW

<第3編>

147 — 資料編

148 — 会社概要

149 — 総資産額の推移

150 — 売上高の推移

151 — 当期純利益の推移

152 — (連結)従業員数の推移

153 — セグメント別売上高の推移、海外事業売上高の推移

154 — 子会社連結による売上高・経常利益の推移、株価の推移

155 — 株主数の推移

156 — 国内拠点

157 — 国内グループ会社

158 — 海外拠点

159 — 海外グループ会社

160 — 年表

179 — あとがき

第1編

立花エレテック100年の歩み